

東京2020パラリンピック  
聖火リレー採火式

時8月15日(日)18時30分から  
場引揚記念公園

内引揚体験者がおこした種火から、本市出身パラリンピック金メダリストや支援学校生徒、聾学校児童、身体障害者団体代表、引揚語りの会などが「引き揚げ平和の光」として採火

園スポーツ振興課 (☎66・1058)



## 灯し続けた思いの軌跡

東京2020オリンピック聖火リレーが5月25日・26日、京都府立京都スタジアム(亀岡市)で行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公道での走行を避け、閉鎖空間となるスタジアムでの代替開催。観客は走者の家族などに限られ、2日間約1800人がオリンピック聖火をつなぎました。

会場には、一周700mの特設コースが設けられ、オリンピック聖火ランナーは観客席に手を振り、笑顔を見せながらコースをゆつくりと走りました。次の走者にオリンピック聖火を受け渡す「トーチキス」は、それぞれが思い思いのポーズを取る見せ場となりました。

兵庫県から受け取ったオリンピック聖火は、京都府から滋賀県へとつながれ、北陸、東北、北海道へと北上して折り返し、会場となる東京へ到着しました。

舞鶴市から聖火リレーに参加したのは6人。それぞれの聖火リレーにかけた思いやオリンピック聖火をつないだ感想を紹介します。

市ホームページ(左コードからアクセス可)ではより詳しくオリンピック聖火ランナーを紹介しています。

《スポーツ振興課》



本田徹さん

いつも自分を支えてくれている家族や従業員の皆さんに、絆をつなぐことの大切さを伝えていきたいという思いで走りました。

オリンピック聖火リレーが延期になり、中止にする都道府県もあった中で開催される心配でしたが、走ることができてよかったです。当日の空は今までに見たことのない青さとても感動しました。

「人と人」とのつながりが大切だと思っていて、このオリンピック聖火リレーでも、聖火を受け渡すオリンピック聖火ランナーの方々と仲良くなりました。今はつながりが希薄になってきている時代なので、日頃から人と人との結びつきを大切にしていきたいと思っています。

亀村美由紀さん

20年ほど前に難病を発病して幼稚園を退職しました。当時担当していた子ども達が20歳ぐらいになった今、その子たちに頑張っている今の自分の姿を見せたい、これまで支えてくれた人へ恩返しをしたいという思いで走りました。走る姿を見た教え子たちから連絡もあり、とてもうれしかったです。延期になったときは、来年、元気に走ることができると不安に思いましたが、こうして走ることができました。自分の子どもや家族はもちろん、今働いている幼稚園の子ども達が全力で遊ぶ姿やパワーは薬よりも元気にさせてくれます。皆さんのおかげで私が走れたように、今後の人生では色んな人へ恩返しをしていきたいと思っています。



仲井祐子さん

会場のスタッフの方に「皆さんの笑顔が見たくてこの仕事をしているので、笑顔で走ってください」と言われ、笑顔で走ることができました。

1年延期されていましたが、その期間にコロナを取り巻く状況、医療のことなどを考えることができました。この1年がなければただ走って満足していただけかもしれません。オリンピック聖火リレーを通じて成長することができたと思います。中学の学習支援員をしていますが、人生って自分の思うようにいかないことが多いです。頑張っても結果が出ないこともあります。でも頑張っていたら、その努力を見てくれる人が必ずいるので、頑張った過程はすごく大事にしてほしいと思います。



中本朱音さん

とても緊張したけど、すごく楽しかったです。舞鶴の人たちに笑顔を届けようとか、早くコロナが無くなってほしいと思いながら走りました。学校の皆にも応援してもらい、走っている映像を見た友達からは「すごい緊張しているな」とか言われ盛り上がりました。

オリンピック聖火リレーが1年延期になったことや舞鶴市を走れなかったことは残念ですが、この1年でコロナを収めるために自分が何をすべきか考え、将来は医療関係の仕事をしたなと考えています。

これまでは物事をネガティブに考えがちでしたが、この経験を生かして、今後、何事にも挑戦していこうと思います。

大橋真起子さん

フィットネスクラブでコーチをしています。健康な人を増やしていきたい、オリンピック聖火リレーが運動に興味がない人の運動をするきっかけになったらいいなと思って走りました。

オリンピックトーチはクラブにも飾り、クラブのメンバーさんに見て触ってもらいました。「明るい話題で元気になった」「すごくワクワクした」とメンバーさんが想像以上に喜んでくれたので、いつも元気をもらっている分の恩返しできてよかったです。

今回の経験を通じて、夢はあきらめなければかなうとすごく感じました。今まで以上に、あきらめないことの大切さを心から伝えていけると思います。



山本新之介さん

福島からたくさんの方がつなぎ、たくさんの方の思いの込められたオリンピック聖火。オリンピック聖火は地球上に1つしか存在しません。この火を絶対につながらないといけないという思いで走り、無事つなぐことができてよかったです。

以前はチェアスキーアルペン、現在は車いすハンドボールをしています。

車いすハンドボールでは、日の丸を背負ってプレーしたいと思っているので、パラリンピックの正式種目になるよう期待しています。

また、こうして走ることができたのは、チャレンジしようと一歩踏み出したからです。勇気をもって一歩踏み出すことの大切さも感じる事ができました。